

総評

今年も数多くの作品が集まり、どれも個性的で熱心に研究に取り組んでいる様子が伝わってくるものばかりでした。そのなかでも、自分のまわりの自然や人々や社会と、自分とのかかわりをしっかりと見つめることができていて作品が人賞しているといえます。

まず、また、根気よく継続して調べられている作品も、高い評価を受けました。

自分の調べたことと日常生活とのつながりを考えた、「ふりかえり」のある作品が、来年はもっと増えるといえます。



平和を願う気持ちをそのまま表紙にしました

文部科学大臣奨励賞

へいかわのいりーどうしてせんそうをしたのですか。ー

東京都 白百合学園小学校 2年 小出絢子



戦時中の食事はあまりおいしくなかったようです



紙面構成もよく考えられていて、資料のまとめ方にも自分なりの工夫が見られます

「どうして戦争をしたのだらう」という疑問から、戦争という重いテーマを子どもらしい視点で見つめた作品です。

まず、「戦争とはどんなことなのか」「自分なりに調べ始めます。戦争に関する資料館へ何度も足を運び、写真をとったりたくさん本を調べたり、人に話を聞いたり……。資料館ではこわくて泣いてしまふこともありました。なかでも、戦時中の子どもと今の自分を比較して、「私だったらどう思うだろう」と考える場面では、実際に戦時中の食事を食べてみるという実践的な取り組みもおこなっています。

戦争について調べた後は、戦争経験者へのインタビューです。最初ははつきりしていらした絢子さん、しだいに自分から質問できるようになっていきます。

そして、絢子さんが出した結論は、「友だちを理解するように他の国の人のことも理解すれば、戦争は起きない」ということです。

多くの人や家族とのかかわりのなかから自分なりの結論を導き出したこと、そして何よりも絢子さん自身がこの研究を進めていく過程で大きく成長し、自分自身を振り返りながら深く物事を考えられるようになっていた点が、高く評価されました。

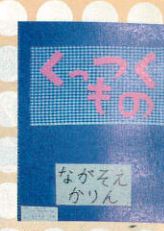
また、研究内容のまとめ方や文章力も非常にすぐれており、平和な世界を願う思いが強く伝わってくる大作でした。

これからの、このテーマについて考え続けていけるとよいですね。

子どもの文化・教育研究所 理事長賞

くつつくもの

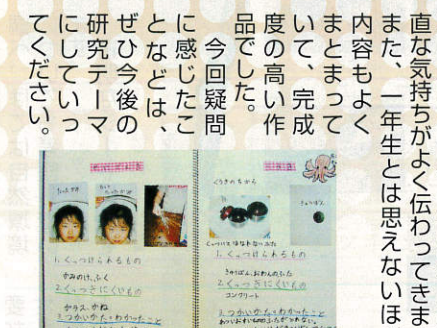
福岡県 明治学園小学校 1年 長副華凜



表紙も「くつつくもの」で作られています

「なんでこれはくつつくんだらう」という子どもならではの疑問は感じたことのある疑問から、身のまわりの「くつつくもの」について調べ始めました。

まず、「冷えてくつつくもの」「道具を使ってくつつくもの」「自分なり」「くつつくもの」を分類しています。そしてその「くつつくもの」を一つずつ実験



実際に自分も実験台になり、静電気で髪を逆立てている様子です

していきます。とにかく、たくさんものについて調べていて、「こんなものもくつつくんだ！」と感心させられるほどです。

最後の「まとめ」でも、おどろいたことやふしぎに感じた素直な気持ちがよく伝わってきます。

また、一年生とは思えないほどの内容もよくまとまっていて、完成度の高い作品でした。

今回疑問に感じたことなどは、ぜひ今後の研究テーマにしたいと思っています。

中央出版株式会社 社長賞

かぶと虫のかんさつ日記の本

大阪府 堺市立浜寺石津小学校 2年 左倉和喜



大好きなカブトムシを観察してできたこの本は、和喜さんの宝物ですね

二年間もの長い年月をかけて根気よく観察を続けた力作です。

最初はカブトムシの幼虫を見て「きもちわるい」と言っていた和喜さんですが、しだいに愛情が生まれていきます。二年目になると



「えいよのちがいで、大きさがかわるということがわかりました」

カブトムシにあたえる栄養を水とパイオウォーターに分けて育てていねいな観察のなかでしっかりと比較もできています。

また、自分（人間）とくらべて「カブトムシは夜行動する」という新しい発見などもたくさんありました。新鮮なおどろきや発見にあふれた子どもらしい作品に仕上がっています。次はどんな「本」ができるのか楽しみです。

優秀賞

アリのかんさつ

岐阜県 美濃加茂市立山手小学校 1年 大脇 令

ぼくのシュート

東京都 聖徳学園小学校 2年 多賀谷 亘

せかいのおこめとおこめりょうり

東京都 目黒星美学園小学校 2年 大村優介

アリのけんきゅう

岐阜県 柳津町立柳津小学校 2年 水野裕子

家族な前よばれなかよしランキング

島根県 松江市立古江小学校 1年 渡部瑛輝
3年 渡部絢乃

中日新聞社賞



おりがみつかい ちーちゃん(まほうのせかい)

岐阜県 各務原市立蘇原第一小学校 2年 山田千紘



レポートのほかに、千紘さんの作った多面体がたくさん入った「たからばこ」もありました

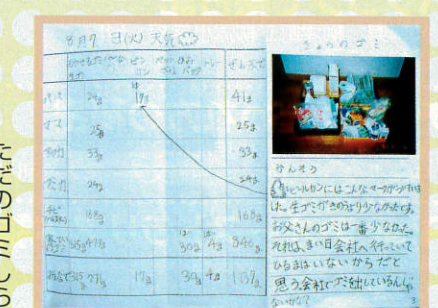
折り紙が大好きな千紘さんは、身のまわりのものや折り紙で作ったもののなかに、丸や三角や四角などさまざまな形があることに気づきます。そして、ついに多面体まで作り上げ、一つ一つそのなぞにせまります。

その、二年生とは思えないほどの数学的な研究が評価されました。また、紙面構成にも工夫がこらされており、まさに千紘さんの「おりがみのせかい」に入りこんでしまふような作品でした。

全国小学校生活科教育研究協議会 会長賞

わたしの家のゴミしらべ

神奈川県 茅ヶ崎市立東海岸小学校 2年 中田絢千



「どんなゴミ」だけでなく「だれのゴミ」にも注目した点が評価されました

ただのゴミしらべではなく、家族の中の「だれの」「どんなゴミ」が多いのかを調べている、その着眼点が高い評価を受けました。

家族一人一人（ハムスターも！）のゴミを集めて、それらを「燃えるゴミ」や「プラスチック」などに分けて重さを測る。決して楽な作業ではなかったはずですが、楽しみながら取り組んでいる様子が伝わってきます。

また、家族のゴミをくらべることで新しく発見することも多く、それに対する自分なりの考察もとてもよく書けています。

自分とゴミとのつながりをしっかりと見つめることができた、最も「生活科」らしい作品でした。